

自己の諸課題を対象に価値観を修正する 中学校社会科授業開発と実践

— 公民的分野の単元「私たちと現代社会」におけるキャリア教育へのアプローチ —

鳴門教育大学大学院 院生 高倉 健輔

I 本研究の目的と方法

本研究では「自己の諸課題」を通して価値観を修正する社会科授業を開発し、実践を経て生徒の価値観修正の結果を検証することを目的とする。これまでに様々な「社会の諸課題」について政治家や専門家など様々な立場から考えさせ、説得力のある理論や説明をもとに望ましい解決策を追求して選択する授業提案は昨今多く見られる。しかし、社会科教育において、「自己の諸課題」を題材に価値観を修正させる社会科授業提案は少ない。自己の諸課題を対象とすることはそれ単体では社会認識教育といえないが、社会の諸課題を検討する際に、自己の内面、すなわち自身の拠り所とする価値や規範を探ることになる。

ここでいう規範とは「～べきである」と記述される命題ないし、その体系を示す。生徒の規範意識を育成することは学校教育において重要な役割の一つだと考えられる。社会認識教育では社会における規範をメインに据え、それとの関連で自己の価値を修正・発展していく機会をキャリア教育に求め、両者の接続を図っていくべきだと考える。本研究では、社会科教育の理論からキャリア教育実践へのアプローチを試みて、生徒の実りのある将来のための人格形成、特にキャリア教育に寄与することも一つの目標とする。

本研究では次のような手順を取る。まず、先行研究の整理と分析を行い、規範の相対化学習と価値観の修正学習の関連について定義を行う。次にキャリア教育と社会科教育の関連性を図る理論としての価値観修正学習を提案する。最後に、モデルとしての授業案と、それを簡略化した実践の様子を紹介し、生徒の価値観修正の実践について考察することにする。

II 先行研究の整理と分析

規範の相対化学習と価値観の修正学習の定義を行い、理論構築のために規範に関する二つの先行研究を参考にする。

一つは、社会集団のもとで規範に関して合意形成を行う活動を通して自分自身のとるべき指針を決定する授業例として吉村氏の授業論を挙げる。公共的価値を創出する授業の一例ではあるものの、生徒個人の切実な課題を解決できることに関しては不十分であり、授業分類表においては客観性と主観性を相互に考え、議論する授業の形式であると位置づける。

もう一つは、規範を対象に規範反省学習を行う授業例として梅津氏の授業論を挙げる。規範のもつ権力作用を分析・吟味し、差別・抑圧の社会問題の解決を指向して自己言及的に規範の再定義を促している授業の一例ではあるものの、あくまで歴史教育において規範の反省学習を行う段階で留まる。授業分類表においては主観性を客観的に捉えなおし、様々な文化体系を考える授業形式であると位置づける。

梅津(2008)は、社会科教育としての本質を対抗イデオロギー教育に求め、規範の遵守を子どもたちに教え込んでいく学習を批判し、社会問題の解決を指向して自己言及的に規範の再定義を促す規範反省学習を説いている。それに対して、筆者は、規範に対する自己言及的な再定義にとどまらず、規範に影響される自己の行為そのものをも対象化し、強制のない形で自分の生き方に投影させて、具体的な自己の行為の修正や更新を積極的に促す学習を提起したい。これを「規範の相対化学習を通して価値観を修正する」学習論と定義する。そして、社会科教育の本質を規範の発動する権力

作用を対象化に置くこと自体は認めつつ、後段の自己の行為の修正や更新へと導いていくプロセスをキャリア教育への架橋地点と位置づけ、教科を通じたキャリア教育として機能させることとする。この学習が意図する市民像は、「自省し、行為へと還元しようとする市民」である。

Ⅲ キャリア教育と社会科教育の関連性

キャリア教育の定義を確認し、キャリア教育に関する先行研究を分析し、本研究で理論づけるキャリア教育実践はどのような位置づけであるか定義する。キャリア教育と社会科教育はどのように関連し合い、なぜ価値観修正学習の方法の一つとしてキャリア教育実践が最適な授業実践になり得るか確認する。

草創期のキャリア教育と今日のキャリア教育では焦点や役割自体が変容し、キャリア教育実践の型も様々である。過去のキャリア教育実践を分析し直すことで、本研究で扱うキャリア教育実践はどのような焦点や役割を担っているのか明らかにする。先行研究は、①社会的活動中心で価値多様なキャリア教育実践（茨城県下妻市立下妻中学校の進路総合単元第一学年「わたし」、第二学年「なかま」、第三学年「らいふ」参照）と②教科内容中心で価値多様なキャリア教育実践（京都教育大学附属京都中学校社会科第一学年「かしこ

い消費者になろう」参照）と③社会的活動中心で価値一元的なキャリア教育実践（従来の職場体験学習）と④教科内容中心で価値一元的なキャリア教育実践（「自他の生命のかけがえのなさ」文部省中学校 道徳教育推進指導資料から道徳科参照）の大きく4つに分類できる（図1参照）。本研究が連携しようとするキャリア教育は先行研究分類の中でも「価値多様な、社会的活動を有しないキャリア教育実践」に近い授業実践である。

本研究において、キャリア教育とは一人ひとりの生徒が自分の良さや可能性を認識し、様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り開くことができる能力を育成できるような教育であると定義する。

社会科教科の目標とキャリア教育の目標を混在するのではなく、あくまで社会科教科の単元内容、目標の中にキャリア教育のそれらの中でも類似、一致した内容が存在するかどうか考察し、授業実践の単元を考えることが教科を通じたキャリア教育の実践の形だというのが筆者の見解である。

Ⅳ 単元構成論と授業構成

本研究の理論の根幹は、社会科教育のなかにキャリア教育の要素があることを認め、教科としての社会科の本質を失うことなく、生徒のキャリア形成へと寄与していくことにある。そのために、

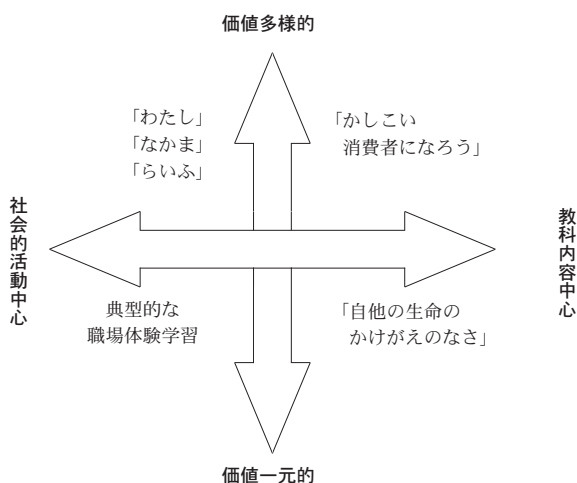


図1 キャリア教育実践の先行研究の分析（筆者作成）

表1 単元構成

理論	視点	単元	授業内容	A中学校での実践との対応
規範反省	他者の規範について自立性、超越性を持った規範が他者の行動に影響を与えていることを把握する。	小単元1 プロ野球F A問題と中国漁船衝突映像流出事件を考える	メジャー移籍する野球選手と尖閣諸島中国漁船衝突事件における海上保安官の規範を反省する。 <u>ダイヤモンドランキングを活用し、現時点での生徒の規範を確認する。</u>	A中学校における指導案1
		小単元2 伝統文化のためのキャリア選択について考える	防衛大学卒業式出席問題と歌舞伎役者の跡継ぎ問題について規範を反省する。	
価値観修正	自己の規範について自立性、超越性を持った規範が自己の行動に影響を与えていることを把握する。	小単元3 普通科高校、専門学校への就職について考える	普通科高校進学と実業系高校進学に関する生徒自身の価値観を修正する。	A中学校における指導案2
		小単元4 終身雇用制について考える	日本の終身雇用制度を諸国の就職システムと対比し、生徒自身の価値観を修正する。 <u>ダイヤモンドランキングを活用し、授業を受けて改めて生徒の価値観を修正する。</u>	

筆者作成

梅津の説く規範反省学習を基礎にして、そこから自身の価値観をゆるがす場面を意図的に設けて、価値観の変容、またはそれに動じないような確信へと誘う。これを価値観の「修正」と呼称したい。

筆者が開発した単元「社会を知ることを通して自分を知ろう」の授業構成は表1のとおりである。

小単元1「プロ野球F A問題と中国漁船衝突映像流出事件を考える」の授業では、ダイヤモンドランキングを活用し、生徒の現時点での価値観について気づかせる活動を取り入れる。そのあとプロ野球選手メジャー移籍問題と尖閣諸島中国漁船衝突事件問題から社会的規範と個人的規範を客観的に捉える授業を実践する。

小単元2「伝統文化のためのキャリア選択について考える」の授業では防衛大学卒業生任官拒否問題と歌舞伎役者跡継ぎ問題から小単元1同様に社会的規範と個人的規範を客観的に捉える授業を実践する。

小単元3「普通科高校、専門学校への就職について考える」の授業では生徒の普通科高校進学と専門学校進学のメリット、デメリットを考えさせ

る活動から、自己の価値観や規範に気づき、主観的に捉える授業を実践する。

小単元4「終身雇用制について考える」の授業では、日本の職業的慣例の一つである終身雇用制について学習し、小単元3と同様に自己の価値観や規範に気づき、主観的に捉える授業を実践する。最後に授業前後で変化もしくは変化しなかった価値観についてダイヤモンドランキングを再び作成することで、自己の価値観に気づく活動を行う。以下に授業実践で扱った9つのキャリア像一覧（表2）と授業実践活動③で配布したパターンカード（表3）を提示する。

特に本研究では紙面の制約上、実際に授業実践を行った徳島県内のA中学校での指導案を提示する。先述の単元構成表の4単元を50分×2コマに短縮した授業展開（表1の網掛け部分）が「指導案1」と「指導案2」である。

小単元1「自衛隊任官拒否問題と終身雇用制度から職業を考える」の授業は職業に関する社会的問題（自衛隊任官拒否、終身雇用制度）について社会的立場、個人的立場両方から考え、自らのキャ

表2 9つのキャリア像

	価値	キャリアの具体
(1)	伝統、継承、文化のため	徳島でレンコン農家を営むAさんは美味しい農産品を全国に届ける農業をしている。Aさんの作るレンコンは購入者からの評判も良く、徳島県の魅力を、レンコンを通して全国に発信していくことに生きがいを感じている。祖父の代から続くレンコン栽培を続けてきてよかった。
(2)	県や市の住民のため	徳島県庁に努めるBさんは地元貢献していることに非常にやりがいを感じている。景気が良い時は民間職のように給料は多くはない。給料はほどほどであるが職は安定している。辞めさせられることはなさそうである。県や市のために仕事できることに生きがいを感じている。
(3)	夢の実現のため	昨年メジャーデビューし、武道館ライブを開催して客席を満員にさせたCさんもかつては路上ライブで下積み生活を送ってきた。いわゆるバンドマンである。下積み生活時代は、確かに職業は不安定で、お金はなかったものの、Cさんは自分の描く夢を追いかけた当時に振り返り生きがいを感じていた。
(4)	世の中の役に立つため	東京で、薬品メーカーに勤めるDさんは自分が研究に携わり、新薬の開発に成功したときには社長からボーナスをもらった。自分の仕事ぶりがきちんと評価されて、給料にも反映されることに生きがいを感じている。これからも会社に貢献し、能力を発揮し、世の中の役に立つものを開発し、自己実現を果たしていきたい。
(5)	国家のため	某省庁に勤めるEさんは国家公務員として、国のために貢献し、働くことに非常にやりがいを感じている。景気が良い時は民間職のように給料は多くはない。給料はほどほどであるが職は安定している。仮に辞めても天引き先が確保されそうである。国家プロジェクトに携われる仕事に就いていることに生きがいを感じている。全国転勤であるが、各地域の異なる文化に触れるのが楽しみである。
(6)	愛する人のため	25歳で結婚し、子供は小学生から高校生までの4人を育てる専業主婦(夫)であるFさんは家族のために働くことに非常に生きがいを感じている。主婦業の合間には趣味のパッチワークを楽しんだり、読書にふける時間も確保できており、毎日が充実している。
(7)	困っている人のため	周りから「スーパーボランティア」と呼ばれることもあるGさんの生活はボランティア活動を中心に回っている。生活はバイトの給料をやりくりすることで裕福ではないが不自由なく生活できている。困っている人から「ありがとう。」と感謝されることに非常に生きがいを感じている。
(8)	会社や利益のため	大学卒業後、ベンチャー企業を立ち上げたHさんは今では年商10億円、従業員100人を抱える企業にまで成長した。立ち上げ時は苦労したもの、雇われる立場ではなく、自ら立ち上げた企業で、世にない商品を発信し、時間の拘束がない今の生活に非常に生きがいを感じている。
(9)	自分の生活の充実のため	給料はそんなに高くはないが休日が確実にあり、17:00には完全退勤が可能なIさんは趣味の釣りや、旅行にでかけたりすることに非常に生きがいを感じている。釣り動画をYouTubeに投稿し、わずかながらの収益を得ることが最近の楽しみだ。

筆者作成

表3 パターンカードの内容一覧

像	影響	パターンの具体
(1)	+	パターン① 若者の伝統離れが加速している実態を受けて、政府が農家を継ぐことや、家業を継ぐことにした伝統文化を守ろうとする人に1000万円の給付金を出すことになった。
	-	パターン② 一族経営の医者や企業のせいで国民のそれら分野への新規参入が難しくなっている実態を受けて、政府は親のする仕事や家業を継ぐ人の月収を半減させる方針を取り決めた。
(2)	+	パターン③ 自分のために生きる人が多くなった実態を受けて、政府は県や市のために仕事に就く人(公務員など)には1000万円の給付金を支給することになった。
	-	パターン④ 公務員人口が増えすぎて、政府は財政の行き詰まりを見せ始めたため、政府は、県や市のために働く人(特に公務員など)の月収を半減させることにした。
(3)	+	パターン⑤ 大多数の国民が堅実で安定の道を進み始めている実態を受けて、政府は今後、歌姫や野球選手のように一握りではあるものの夢のある職業に就こうと努力している人に給付金1000万円を支給することになった。
	-	パターン⑥ 夢を実現するために正規職に就かない人が続出し、国家の経済が回らなくなってしまった。政府は状況を打破するため、夢ばかり追いつめていく人の、ただでさえ少ない月収を半減する方針を取り決めた。
(4)	+	パターン⑦ 人類発展につながるような開発を日本から発信したいと考えた政府は、世の中の役に立つような開発を成し遂げた人には、1億円の給付金を支給することになった。
	-	パターン⑧ 世の中に役に立つために生きることのみに執着した国民が増えてしまい、職業にかたよりが生じて、日本社会が回らなくなってきた。世の中に役に立とうと生きる人の月収を半減させる方針を政府は取り決めた。
(5)	+	パターン⑨ 自分のために生きる人が多くなった実態を受けて、政府は国家(公務員など)のために仕事に就く人には500万円の給付金を支給することになった。
	-	パターン⑩ 公務員人口が増えすぎて、政府は財政の行き詰まりを見せ始めたため、政府は、国のために働く人(特に国家公務員など)の月収を半減させることにした。
(6)	+	パターン⑪ 主婦(夫)業は、家族のために仕事をしているにも関わらず、お給料が支払われないことに批判が集中し、政府は月額30万円の給付金を出すことになった。
	-	パターン⑫ 女性(男性)の社会進出を求める政府が、専業主婦(夫)のいる家庭に月10万円の課税を要求することになった。
(7)	+	パターン⑬ 東日本大震災や熊本地震の発生をうけて、ボランティア要因の需要が高まり、現地でボランティア活動をしてくれる人に、政府は、ご飯と寝るところを支給することになった。
	-	パターン⑭ ボランティア活動が空前のブームとなり、働かずニート同然の生活をする人の割合が増えてしまったことを受けて、政府はボランティア活動を自粛させるために、ボランティアをする人には月5万円の課税をすることになった。
(8)	+	パターン⑮ お金を稼ぐことができる(例えば新しく企業を立ち上げる)人には政府が1000万円の給付金を出すことになった。
	-	パターン⑯ お金を稼ぐために起業する人が続出し、貧富の差が拡大したことをうけて、政府は新企業を立ち上げる人に1000万円の課税を徴収することになった。
(9)	+	パターン⑰ 働きすぎ改革の事業の一つとして仕事終わりや土日に仕事をせず、趣味に時間を使う人には一定給付金月額10万円の給付金をだすことになった。
	-	パターン⑱ 自分のために働き、趣味に時間とお金を使う人が続出してきたことをうけて、政府は仕事時間外でお金の支出が激しい人の課税政策をすすめて月額10万円を徴収することになった。

筆者作成

リア観を見直す授業展開である。

まず生徒は個人個人の現状のキャリア観を確認するため、ダイヤモンドランキングを作成する。9つのキャリア像の中からまずは最も自分が共感できる生き方であるキャリア像を選択し、理由も書く。このように無数ある職業の中から、自分がしたい職業を選ぶことや、変更したりすることは

自由であることを理解する。しかし、防衛大学校に入学したものの自衛隊に入隊しない学生には一定数の批判の声が上がることを理解する。この任官拒否問題に関して、生徒は社会的(批判者)の立場と個人的(任官拒否者)立場双方から考えることを通して、進路、就職先を変更することは自由であるにも関わらず、周囲から批判や反発を受

表4 指導案1「自衛隊任官拒否問題と終身雇用制度から職業を考える」

時間	環境・資料	学習活動	指導上の留意点	評価
10分	・パワーポイント	将来の夢はあるか、それは何のためであるか考える。		
20分	・キャリア像一覧の図	(活動①) 9つのキャリア像から自分が最も共感するものを選択する。	コンテンツ(職業名)で判断させるのではなく、～のためという観点から判断させる。	理由に基づいてキャリア像を選択できているか(ワークシート)
5分	・防衛大学に入学した人のお話	1 進路、就職先を変更することは自由であるにも関わらず、周囲から批判や反発を受ける例を考える。	該当者の立場になって～なのはなぜか考えさせる。	批判者の立場と任官拒否者の立場双方から考えられているか(発表、話し合い)
5分	・任官拒否を書き綴る新聞記事	防衛大学校に入学したものの、自衛隊の任官を拒否することに関して、批判者の立場と任官拒否者の立場双方から考える。		
進路、就職先を変更することは自由であるにも関わらず、周囲から批判や反発を受けることもある				
5分	・豊田章男社長、経団連中西会長のインタビュー映像	2 進路、就職先を変更しないことは自由であるにも関わらず、退職を余儀なくされる例を考える。	1,2の対立には社会からの要求と個人からの要求があることを確認させる。	雇用者の立場と被雇用者の立場双方から考えられているか(発表、話し合い)
5分	・終身雇用制度に対する国民へのアンケート調査結果データ	雇用者の立場と被雇用者の立場双方から終身雇用制について考える。	1,2の学習活動を通して活動①のときに生徒が考えた最も共感する職業観に揺らぎを与える。	
進路、就職先を変更しないことは自由であるにも関わらず、退職を余儀なくされる例を考える				
職業に関して、社会から要求されることと個人が望むことはときに対立している				

筆者作成

けることもあることを理解する。小単元②「ダイヤモンドランキングの構造から自らのキャリア意識を考える」の授業は小単元①で作成したダイヤモンドランキングを今度は順位付けする活動②と、予期せぬ事態に直面した時にダイヤモンドランキングの順位付けは変更されるか再び順位付けする活動③を通して生徒は価値観修正をする授業

展開となっている。

まず生徒は9つのキャリア像を、ダイヤモンドランキングを使って順位付けする。(活動②) 続いて活動①で作成したダイヤモンドランキングの最上位のキャリア像を動揺、もしくは最下位のキャリア像の評価を上げるようなイベントを仮に設定し、その状況下に陥ったときそのような価値

表5 指導案2「ダイヤモンドランキングの構造から自らのキャリア意識を考える

時間	環境・資料	学習活動	指導上の留意点	評価
20分	パワーポイント	(活動②) 9つのキャリア像を、ダイヤモンドランキングを使って順位付けする。	コンテンツ(職業名)で判断させるのではなく、～のためという観点から判断させる。	理由に基づいてダイヤモンドランキングを作成できているか(ワークシート)
20分	パターンカード	(活動③) パターンカードの内容をうけて活動②で作成した順位を再び考える。	パターンカードを配布し、生徒の現在持っている職業に対する価値観を揺るがす。	理由に基づいてダイヤモンドランキングを発表できているか(発表, ワークシート)
10分		教師の説明を聞き、職業選択には個人的意向と社会から要求される意向の双方があり、時として判断を迫られることをとらえる。 教師の説明を聞き、コロナ禍など、予期せぬ事態が起きる21世紀において自ら判断し、意思決定することが重要であることを認識する。	価値観を揺さぶらずことが目的であるから、強制的な変更を促しはしない。 各職業を相対的に比較し直し、自らの職業観を問い直すことができるような支援を心掛ける。	

筆者作成

観へ変更、もしくは変更しないか考える。(活動③) 職業選択には個人的意向と、社会から要求される意向の双方があり、時として判断を迫られることを学習し、コロナ禍など、予期せぬ事態が起きる21世紀において自ら判断し、意思決定することが重要であることを理解する。

教師があらかじめ設定しておいた9つのキャリア像を生徒に提示し、ダイヤモンドランキングの順位付けをさせる活動をおこなった。9つのキャリア像の設定の理由として3観点挙げられる。一つは、ダイヤモンドランキング作成の作業のためには9つの職業観が必要であるためである。自らの職業選択に対する価値観に気づき、再思考させられるような授業構成において9つのキャリア像は最低限必要であった。

もう一つは9つのキャリア像は何らかの価値や規範を体現したものである必要があるからである。例えばキャリア像⑨(自分の生活の充実のた

めに)は自己の利益追求を目的とした職業選択の一例であることに対して、キャリア像⑤(国家のために)は公の利益を優先するような職業選択の一例である。相反するようなキャリア像を用意するためにも9つのキャリア像を設定する必要があった。

そして、9つのキャリア像には別個の価値や規範に根ざすものもあれば、同じ価値や規範に根ざすものの、社会情勢に翻弄されて評価が分かれるものがあり、それらを羅列するために9つのキャリア像が必要であった。例えば、景気の良し悪しによってキャリア像②(県や市の住民のために)は就職希望者の人数や受け入れ態勢は大きく変化するものである。それら社会情勢の影響を受けて生徒自身の希望するキャリア像は変化するのか、あるいは変化しないのか、それらを改めて思考させる活動になり得る。

V 授業実践を通じた価値観修正学習に関する考察

筆者は2020年11月に徳島県内におけるA中学校の第2学年を対象に50分×2コマを使って授業実践を行う機会を得た。そこで、生徒のワークシート、ダイヤモンドランキングという思考ツール記述の授業前後の変化から価値観修正が生じたかどうか考察した。特に本研究雑誌においては分量の都合上、数人の生徒のダイヤモンドランキングの順位とワークシート記述を提示する。

① 最も共感する生き方・最も共感しない生き方の両方で変化があった生徒のワークシートと考察

最も共感する生き方・最も共感しない生き方の両方で変化があったhさんに関しては、配布したパターン⑧の内容を受けてキャリア像④は二段目へ価値が低下している。活動③でキャリア像④を最上位から降下させていることとワークシート記述だけで判断すると、役に立つ職業を選ぶことをあきらめてしまったかのように考察することはできる。しかし、キャリア像④は最上位から降下してはいるものの、順位を一つ下げただけであり、

大きく降下したわけではない。hさんが職業を選択するときの基準は「世の中の役に立つこと」であると彼自身が自己を再認識することができている。また、hさんは活動③のワークシートで「人の役に立つことができる職業は他にもあり、自由な職業に就きたい。」と記述しており、役に立つ職業は自分が想像している以上に存在することに気づくことができている。職業選択に対してとり広い視野から見ることができるようになっている。それら点からも本研究の価値観修正学習は有意に働いたと考察できる。hさんは明確な将来の夢を既に持っており、活動①②ではその夢の実現に近い内容はキャリア像④だと考えることができている。自己分析に長けた生徒であると考えられる。しかし、これらの点からも、明確な夢のイメージを既に膨らませることができている生徒に対して、いたずらに価値観を崩すパターンを配布することで、生徒の夢を壊すことがないように授業づくりを心掛けることは本授業の課題の一つである。

② 最も共感する生き方、最も共感しない生き方で変化はなかったものの微修正があった生徒のワークシートと考察

資料1 hさんの解答の変遷

事前解答 (活動①)	私が最も共感したのはキャリア像(④)の生き方・働き方である。その理由は、医者を目指しているから。医者は世の中の人の役に立つ仕事だと思うから。	
ランキング (活動②)	④ ⑦ ⑨ ⑤ ⑧ ⑥ ① ③ ②	順位付けの理由：世の中の事(国)にまつわることをダイヤモンドランキングの上のほうに順位づけた。逆に、自分自身があまり興味のないもの(県のこと、伝統など)を順位でいうと下のほうにした。
ランキング修正 と自己省察 (活動③)	⑨ ④ ③ ⑧ ⑥ ⑤ ② ⑦ ①	配布されたパターンカード：⑧(表3を参照) 順位変化の有無とその理由：医者は世の中のために役に立つ職業である。しかし、そのほかにも世の中の役に立つ職業はたくさんある。自由な職業に就きたい。

解答内容より筆者作成

資料2 gさんの解答の変遷

事前解答 (活動①)	私が最も共感したのはキャリア像(④)の生き方・働き方である。その理由は、自分が発明したことや物が世の中の役に立つことはとても嬉しいから。	
ランキング (活動②)	④ ② ⑤ ① ⑥ ⑨ ③ ⑦ ⑧	順位付けの理由：④は人の役に立つ、世の中の役に立つということは嬉しいことだから。②と⑤は県や市、国を自分たちが暮らしやすいように改善することは光栄だから。①⑥⑨は自分の生活を充実して生きられるから。③⑦は給料が安定しないから。⑧は多くの人からのプレッシャーが共感できないから。
ランキング修正 と自己省察 (活動③)	④ ② ⑥ ⑤ ① ⑨ ③ ⑦ ⑧	配布されたパターンカード：⑧(表3を参照) 順位変化の有無とその理由：それでも自分は役に立ちたいので給料が少なくなっても頑張りたいから。そして、もし給料が少なくなりすぎて、生活しにくくなったら、身近な人を支えて生活していきたい。ただ、こんな政策を出すような国のためには働きたくないから、⑤は下がった。

解答内容より筆者作成

最も共感する生き方、最も共感しない生き方で変化はなかったものの微修正があったgさんはパターン⑧を受けても世の中のために働く生き方であるキャリア像④を動かすことはなかった。「給料がなくなっても人の役に立つ職業に就きたい」というワークシート記述からも、gさんの世の中のために働きたいという強い考えは表れており、今回の授業をうけてより自分の価値観が強固なものになったと考えられる。

しかし、パターンカードの内容を深読みし、このような政策をする国のために働きたくはないのでキャリア像⑤の順位を降下させていることは本研究の課題の一つである。キャリア像を選択するときには生徒に職業名だけに着目させるのではなく、目的や意図を考えさせるような支援をする必要がある。

VI 本研究の成果と課題

本研究の成果は以下の二点である。

一点目は、自己の諸課題学習の理論にもとづき、社会科教育とキャリア教育の接続を図り、中学校の社会科公民分野の単元「私たちと現代社会」において、職業に関する具体的授業開発を行ったことである。元来、「私たちと現代社会」の単元は

以後の政治、経済、国際社会の学習の導入とすること」が主なねらいとされているため、自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考えることも本単元の見方の一つとは明記されてはいるものの、実際には生徒個人の主観的観点は無視されることが多かった。本研究においては社会的価値観を現代社会の見方・考え方と関連付けて、生徒に理解させることにとどまらず、生徒の「自己の諸課題」と重ねるための授業モデルを示すことができた。

二点目は、その理論に基づいた授業実践を、中学校第二学年の生徒を対象に行い、授業の前後で生徒の価値観が修正されたかどうか検証したことである。本研究の理論を立てて、授業案を作るだけでなく、実際に生徒に授業実践することで生徒から発信された様々な研究資料を得たことで理論の成果を確認することができた。価値観修正学習の結果と成果を確認するだけでなく、潤滑に進まなかった授業構成部分やワークシート記述作業に気づけたことも実際に授業実践を行ったからこそであり、よりよい授業案と実践の手立てを構築、模索する上で大事な実践機会となった。

本研究の課題は以下の二点である。一点目は、生徒の価値観を修正することは、授業実践の方法を少しでも間違えてしまうと、教師から生徒へ、

一方的な価値注入型授業となってしまうことである。そうならないような実践の方法と手立てを考えることは今後の課題の一つである。

二点目は、中学校の社会科公民分野の単元「私たちと現代社会」において、職業、勤労に関する具体的授業開発を行ったが、それら以外の内容での授業開発と実践を考える余地があることである。職業、勤労に関してだけでなく、家族愛、家庭生活の充実、よりよい学校生活、集団生活の充実など、主として集団や社会との関わりに関することを題材に、広範な教科観連携を視野に入れて授業実践を考えてみることも一つの手段である。また、キャリア教育や道徳の指導に比重を置きすぎること、教科が担うべき本来の教科指導がおろそかになってしまう危険性を内包することは引き続きの課題である。

参考文献

- 岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』岩波ジュニア新書、2003年
- 梅津正美「歴史教育における規範反省学習の授業開発」『社会系教科教育学研究』第20号、2008年、pp. 41-50
- 学職連携ネット・おおた『地域力を生かす中学生の職場体験～地場産業を活用したキャリア教育の実践～』実業之日本社、2009年
- 亀井浩明、鹿嶋研之助『小中学校のキャリア教育実践プログラム－「自分発見」にチャレンジャー』ぎょうせい、2006年
- 黒上晴夫・小島亜華里・泰山裕『シンキングツール～教えることを教えたい～』学習創造フォーラム、2012年、p. 22
- 経済協力開発機構（OECD）『若者のキャリア形成』明石書店、2015年
- 齊藤了文、坂下浩司『はじめての工学倫理』昭和堂、2001年
- 関雅美『ポパーの科学論と社会論』勁草書房、1994年
- 竹内洋一郎、杉山晃太郎『身近な哲学』ナツメ社、2004年
- 田村学『授業を磨く』東洋館出版社、2017年
- 京都教育大学附属小学校・中学校『これならできる「キャリア教育」－小・中学校の実践－』明治図書、2006年
- 中澤渉、藤原翔『格差社会の中の高校生』勁草書店、2015年
- 中根千枝『タテ社会と現代日本』講談社現代新書、2019年
- 濱口佳一郎『新しい労働社会－雇用システムの再構築へ』岩波新書、2009年
- 藤田晃之『キャリア教育フォービギナーズ「お花畑系キャリア教育」は言われるほど多いか？』、実業之日本社、2019年
- 林弘子『育児休業法のすべて』有斐閣ビジネス、1992年
- 水町勇一朗『労働法入門』岩波新書、2019年
- 森川敦子『子どもの規範意識の育成と道徳教育－「社会的慣習」概念の発達に焦点づけて－』、溪水社、2009年
- 吉村功太郎「社会的合意形成能力の育成をめざす社会科授業」『社会科研究』第59号、2003年、pp. 41-50
- 吉村功太郎「社会的合意形成をめざす社会科授業－小単元「脳死・臓器移植法と人権」を事例に－」『社会科教科教育学研究』第13号、2001年、pp. 21-28
- 渡辺三枝子（監修）、神戸大学附属明石中学校（著）『教科のできるキャリア教育－「明石キャリア発達支援カリキュラム」による学校づくり－』図書文化、2009年
- Waugh, D. and Bushell, T., Key Geography Interactions, Nelson Thornes, 2006, pp.122-123.